

会議名	令和4年度 第2回 地域包括支援センター運営協議会
日時	令和5年2月27日(月) 14:00~16:00
場所	うじ安心館 5階 集団指導室 コロナ感染対策のため zoom にて開催 傍聴はうじ安心館 3階ホールにて zoom 視聴
出席者	【委員】6名 空閑会長、中村副会長、村山委員、石崎委員、小松委員、山下委員、奥西委員(欠席)
	【事務局】11名 【地域包括支援センター代表者】7名
	【傍聴者】一般:0名・報道関係者:0名
議題	1. 開会 2. 令和4年度4月~12月 地域包括支援センターの運営状況について 3. 令和5年度 地域包括支援センターの運営について 4. 閉会
配布資料	・次第 ・地域包括支援センター運営協議会委員名簿 ・資料① 令和4年4~12月 地域包括支援センター運営状況報告 ・資料② 令和5年度 地域包括支援センターの運営について ・資料③ 令和5年度 地域包括支援センター運営方針(案)

## 会議の経過・結果

### 1. 開会

### 2. 新任委員の紹介

### 3. 令和4年4月~12月 地域包括支援センターの運営状況について

事務局より報告【資料1】

《質疑・応答》

委員) いつも議論になっている、ケアマネの定着化の対策について発言したい。

個別ケアに必要な基礎的な研修を入れてはどうかと思った。個別の介護予防、ケアマネジメントの中で経験した介護予防や重度化予防の実践による成功体験は、ケアマネにとって重要なこと。そのため、先進地の視察、個人の尊厳・自己実現に関する研修や事例研究があってもいいと思う。

個人個人に人生の価値観があり、事前に介入することは難しいが、介護保険を利用されることになったという機会を捉えて、介護予防、ケアマネジメントをすることで、健康寿命の気づきの機会になる。丁寧なアセスメント、ケアマネジメントを充実して、地域の人たちの自己実現と意欲の向上を目指してほしい。

介護予防の第一線で活躍しているケアマネのやる気につながる施策を盛り込んでもらいたい。  
2点目、専門三職種ごとの部会の中で、保健師看護師部会のところで、関節疾患を有する高齢者への介護予防についてということで、ケアマネジメント用の資料作成をグループ作業でしていると書かれている。

この内容について、作業するに至った経過、内容、今後の方向性を教えてもらいたい。

会長) 1点目はいろんなアイディアを含めたご意見をいただいた。2点目はご質問をいただいている。事務局からどうか。

事務局) 1点目について。ケア会議の中での研修はこの間不足していると感じている。

10年前にケア会議を立ち上げた時にはいろいろな研修に参加していた時期もあったが、現在は個別会議については適時行っていただく形で実施していただいている。来年度の研修を組むにあたり、考えていきたい。

京都府の研修を受けられるような制度もあるためそういったものを利用することや、コロナも落ち着いてきたため、先進地への視察や zoom で勉強という形でも取り組めるのではないかと考えている。

2点目の保健師看護師部会における要支援者の原因疾患の研究について。医療職として、要支援を受けるに至った原因について調査が必要と考え、そこから健康寿命につなげるための効果的な対策を検討するためにスタートした。

包括が携わった1000人弱の要支援者となった方の原因疾患を分析しているところ。原因疾患は関節疾患からの要支援認定が一番多かった。

今後の対策について検討は行っているが、今年度成果としてはまだ得られていない。今後もしばらくいろいろな意見をいただきながら考えていきたい。

委員) 原因疾患で関節疾患が多いということはわかった。関節疾患に至る細かい症状、骨折など、もう一歩踏み込んだ原因はわかるのか。

事務局) 関節疾患の中の詳しい分析はまだできていないが、骨折転倒以外の関節疾患が多いことはわかっている。

委員) 外に出歩くこと、人と会話をすることがないと閉じこもりになり、寝たきりになっていく。歩けるということが重要だと思う。引き続き関節疾患の研究を行っていただきたい。

会長) ぜひ取り組んでいってもらいたい。委員の話された1点目が重要だと思っている。

支える人を支える仕組みが大事。支援者が幸せでなければいけない。

委員) 資料1のケアプランナーの人数。これで十分足りているのか？

支援プランが1例4000円で、安くて手間がかかっている。

有志が集まって簡素化できることないかとシステムを考え始めた。

介護プランは13000円。支援プランは4000円。

介護プランにかかる手間で4~5人の支援プランができれば、もっと引き受け手が増えるのではないかと考えている。

もう1点。介護サービスを提供する側の問題ばかり取り上げているが、サービスを利用する側にも改善を求めるべきではないか。セルフマネジメントが非常に大事な要素になる。

介護サービスをあまり使わない人に何か還元できるシステムを作り、セルフマネジメントを生かしていける、広めていけることを考える必要があるのではないか。

事務局) 1点目。各包括、法人にご尽力いただき、ケアプランナーの配置は進んだが、他の業務も増えている中、足りているとは言い難い状況と事務局としては考えている。プラン料の問題や、調査の複雑化もある。今研究していただいている簡素化への取り組みについても、事務局としても一緒にできればと考えている。国の方向も見ながら宇治市として何ができるかについて一緒に考えられたらと思っている。9期の計画の最中であるため、そういった分析も進められたらと考えている。

事務局) 2点目について。サービスを利用していない人への還元については、現時点で具体的な検討はできていない。他の自治体の状況をまずは研究しながら考えていきたい。介護保険制度について利用者の理解を深めることも必要だと考えている。併せてポイント制のようなことができるのかどうかはこれからの検討課題としたい。情報などあれば教えていただきたい。

委員) 民生委員をやっていると、なんでも包括にお願いしている。

包括から、民生委員にもっとこうしてほしいということがあれば教えてほしい。

振るばかりで迷惑かけていると思っている。何か助けてほしいことあれば教えてほしい。

難しいことはできないが、何かできることがあれば。

会長) 非常に心強いお言葉。地域はどこかが担ってどこかが頑張ればいいというものではない。

非常に大事なご意見だった。事務局、包括からどうか。

包括) 年に1回は民生委員のみなさんとお会いしたいなと思っている。

民生委員さん同士で助け合ってくださいあってありがたい。

何かあれば相談させていただこうと思っているので、いろいろ話をしながら、ゆっくりお付き合いいただきたい。

会長) 京都市、京都府の民生委員の研修にも出ているが、民生委員になんでも頼んでいる印象。地域で助け合いながらできればと思っている。

委員) まず1点目。高齢者虐待の相談対応の件数について。

コロナ禍で高齢者虐待は増加傾向にあると聞いているが、宇治市において対応数が下がり続けている原因の分析を。

事務局) 実人数は100件前後を推移している。今年度は上半期で108件と多い状況。コロナが明け、高齢者虐待への周知も図られたことに加え、今年度宇治市に正規職員の社会福祉士が1名配置されたことで、連携の中で高齢者虐待の対応がきっちり図られていることなどもあるのではないかと考えている

延べ人数が下がってきているのは、包括の対応力の向上も考えられる。きちんと見立てをして次のサービスにつなぐなど、支援につながっているため、延べ件数としては下がってきたと考えている。

委員) 成年後見の相談対応について。相談対応の実人数は増えているが延べ人数はなぜ減っているのか。

事務局) 成年後見制度は宇治市の計画にも乗せているが、まだまだ制度についてご存知ない方が多い。

そのため、問い合わせが増えている。延べ人数については年度によって都度変化がある。

委員) 小学生を対象にした認知症安心サポーター講座について、どれぐらいの時間をかけてどのような内容でサポーター養成をしているのか。保護者への参加の呼びかけはしているのか。

包括) 小倉小学校、神明小学校の2校が圏域にある。大人へのサポーター養成講座は当然のことなが

ら、子どもたちへのサポーター養成講座を広めようと実施。小倉小学校に関しては今年で6年目の取り組み。神明小学校は令和4年度に初めて実施。

神明小学校は令和4年5月に校長先生とお話をさせていただき、同年7月に実施。道徳の時間、宇治学の時間に講義や寸劇を通して実施した（5年生対象）。以前は保護者にも案内をしていたが、コロナが蔓延し始めてからは、保護者へのアプローチができない状況となっている。

子どもたちが勉強したことが親にも伝わるよう、小学生への養成講座の後、認知症についてどんな勉強をしたのかという会話が家の中で生まれるようなきっかけ作りを目的として、親に向けてアンケートを実施。回収率は非常に高く、80%後半だった。

包括) 御蔵山小学校の5年生の総合の時間に実施。

小学校が京都府の次世代の担い手育成事業という取り組みに申し込みをされ、京都府老人福祉施設協議会経由で法人に依頼。認知症キッズサポーター養成講座を実施。コロナのため一斉実施ができず、クラスごとに実施した。

認知症キッズサポーター養成テキストに沿って認知症の仕組み、対応などについて説明し、鹿児島県の薩摩町が作成された小学生向けのDVDを視聴してもらった。

保護者の同席はできなかったが、自宅に帰ったらお父さんお母さんと話してほしいと伝えた。過去に、子どもから聞いたと親から高齢者の相談が入ったこともあり、子どもたちは家で話してくれているのではないかと思う。

委員) アルプラザ宇治東でのレモンカフェについて。

一般のお客さんにも開かれたものなのか。当日興味を持って来られた方もいたのか。

包括) 宇治市在住の認知症の方、その家族、関心のある方が対象。年齢制限なしの事前申込制。森先生の講演だったため、30名の定員が満席だった。

当日立ち寄られた方もおられたが、満席のためお断りした。

森先生からは、大規模商業施設で実施できたことは大変意義のあることだったと言っている。

会長) 次の議題に移りたい。議題4、令和5年度の包括の運営について。まず事務局から説明していただき、みなさまからご意見いただきたい。

#### 4. 令和5年度 地域包括支援センターの運営について

##### 事務局より報告【資料2、3】

《質疑応答》

会長) この間ずっとこの会で議論し、体制を充実させたいと訴えてきた。増員されるということで、少し体制が強化される。この会で議論したことの意味があったかと考えている。

委員) 超過分がだいぶ減っていることはいいことだと考えるが、事業所に還元できていたとしても、ケアマネ自身に還元できていないことはないか。

そのあたりを改善することで、ケアマネの待遇改善につながるのではないか。

今後の問題として考えていただきたい。

事務局) ケアプランの超過分にあたる場所は委託料から差し引くということが国からも示されているルールであるため、そういう形で実施していたが、ケアプランナーを雇っていただいた分

については委託料から引かないという対応に変えさせていただいた。この部分を個々の職員の処遇の改善までつなげられたらよりよいが、現状ケアプランナーを雇用していただくのが精いっぱい。そもそものプランの作成費用の国の設定価格が低いという問題が、プランナーの雇用が進まない原因点と考えている。今後、宇治市独自にできることが何なのかということも含め、検討していきたいと思っている。

委員) サービス開始までの手順の問題。ケアプランを作って家族が了承してからでないサービスが開始されない。ターミナルの人などが、病院から退院して自宅で療養する際、ケアマネが直接病院の担当者と話をすることでサービスを導入できるようにできないか。緊急の場合にはその方がスムーズに進み、利用者にとってもいいのではないかと思う。

事務局) 緊急的な対応は、要介護の方も含めてということか。

具体的にどんなことができるのかということについては今返答できない。

今後またご指導いただきながら検討できればと考えている。

委員) 関節疾患は高齢になってから取り組んでも大きく改善しない。この問題は極端に言えば幼少期から取り組む必要がある。宇治市版の地域包括ケアシステムが作られている。包括には、その中身を十分に理解し、そのシステムを動かすために、自分の圏域でどのような社会的資源が不足しているのかを調査していただき、要望としてあげてほしい。

市民のみなさんにも地域ケアシステムは示されているが、具体的なことは何も書かれていない。自分の地域に何があるのか知ってもらわないと有効に活用できないのではないかと思っている。

委員) 男性介護者へのネットワーク作りについて。

介護離職などの問題も踏まえ、今後介護者になる可能性の高い中高年男性へのアプローチが重要ではないか。

企業や大学を巻き込んでの認知症安心サポーター養成講座の開催など、アウトリーチに力を入れる予定はあるか。

事務局) 介護離職はあるが、今の市の重点取り組みとしては出していない部分。各包括で、少人数ではあるが、中高年の男性介護者の集まりを作っているものもある。

認知症安心サポーターについては、希望があれば実施している。認知症のアクションアライアンスで、企業に参加していただいて取り組んでもらっているが(現在83団体登録)、認知症の方がお客さんで来られた時にどうしたらいいかという視点で取り組んでいる企業が多い。今後は自分の家族、職員の家族のことにまで意識を向けた取り組みをしてもらいたいと考えている。

委員) アドバンスケアプランニングを早くから導入すると、いろいろとケアプランを立てるのが早く進むのではないかと感じている。日本ではまだアドバンスケアプランニングが浸透していないので、そこも問題だと思う。

会長) 予定していた議題は以上になる。

委員のみなさん貴重なご意見ありがとうございました。

#### 4. 閉会